『時 事 直 言』No.1437　2020 年 11 月 24 日
[HP] http://chokugen.com/
[FAX] 03-3956-1313　　　[mail] info@chokugen.com
[twitter 日本語] t_masuda2019/　[twitter 英語] T_Masuda_eng/
[instagram] t_masuda2019/　[Youtube] 増田俊男チャンネル/

時事評論家 増田俊男

トランプの役目は終わったのか！？

世界に最も大きな影響力を持つアメリカには責任があるからアメリカの選挙、特に大統領選の集計システムの不正はつきものであると前回の本誌で述べた。

アメリアの次期大統領は来年 1 月 6 日の米両院合同委員会で各州選挙人提出大統領選出証明書での集計で決まる。

この日の結果でトランプは「お払い箱」か「任務続行」かが決まる。

トランプは最早機能しなくなった戦後のリベラル世界秩序（リベラル資本主義）の破壊（Scrap）の為、今回バイデンを勝利に導いたと同じ Dominion Voting Systems（得票集計・分析ソフト）でヒラリー・クリントンに勝ったのである。

バイデンは主要閣僚人事を決め、着々と政権移行準備を進めているが、数日前に発表した外交政策を見る限り、オバマ政権と戦後の旧秩序への逆戻りである。

トランプの過激な Scrap（破壊）活動で歴史の歯車が旧から新へ回転し始めたところへバイデンが立ちはだかうことになる。

バイデンは一旦回り始めたアメリカの歯車を止めることが許されるだろうか。

2001 年からアメリカは中東戦争を始めなくてはならなかったから、2000 年の大統領選で票ではゴアに負けていたブッシュが勝ったのである。

しかし民主・共和の談合により得票不正集計は問われることはなかった。

戦後を終わらせる為のトランプの Scrap（破壊）が道半ばなのに何故得票集計マシーンは不正にバイデンを勝たせたのか。

トランプが早々勝利宣言をしたのはバイデンに得票で勝つことが決まっていた上、万一の場合は集計マシーンで勝てることが決まっていたからである。

ところが民主党が集計マシーンをコントロールしていることを知ったトランプは烈火のごとく怒り、「民主党に自分の票を奪われた」と叫び、民主党の不正を暴くと訴訟に持ち込んでいる。

「得票集計マシーンの不正使用」はアメリカのタブー中のタブーである。

どんなに不正選挙が行われても民主党・共和党の超党派的談合で誰一人口に出さずに通してきた。

トランプの為に使われるはずの集計マシーンがバイデンの為に使われていることをトランプに知らせた者こそが歴史上はじめてトランプにタブーを破らせたのである。

証拠が無くても Dominion Voting Systems の元 CEO の証言で「集計マシーン不正が行われなかったことは一度も無かった」ことが明らかになり、証拠が無くて裁判でトランプの不正指摘が不発に終わっても、アメリカの国民は「バイデンの勝利は不正によるもの」と思う。

では誰が、何故不正選挙の実態を国民に明らかにする必要があったのか。

私にはその策略が「手に取るように分かる」！

これからアメリカにどんな恐ろしいことが起きるか。

「増田塾（国際政経塾）」でまたと聞けない私の話をじっくりお聞き下さい。

これからアメリカはどうなるのか、世界は、日本は？

今こそ勉強の時です。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、
事前にマスダ U.S.リサーチジャパン株式会社（FAX：03-3956-1313）までお知らせ下さい。